修士論文要旨

福建省福州市の家族式移民に関する研究
－トランスナショナリズム論に示唆を得て－

唐　風清

1 はじめに――本論のテーマと問題構成

IOM（International Organization of Migration 国際移住機関）によると、世界経済危機の影響が広がったといっても、全世界からみると、越境者の総数は減少しているわけではない。むしろ、経済危機があるから、越境者の人数が増えている。2010 年、越境者の総数は 2 億 1400 万人と推定され、2005 年の 1 億 9100 万から上昇している（Anich, Appave, Christine, Aghazarm, Laczko, Kigouk, 2011:49）。

F・ビーン（F. Bean）と G・スティーブンス（G. Stevens）は、近年の主な移動者類型を、「合法的移民」、「難民」「非合法移民」「移民ビザを持たない短期流入者」と整理している(Bean & Stevens, 2003)。ビーンとスティーブンスは人の国境をこえる移動を経済的に説明する、五つの理論的立場を挙げている：①新古典派経済学理論。②移民の新経済理論。③分節的労働市場論。④世界システム論。⑤ネットワーク理論。

ただし、これらの枠組みは経済的及び社会的な階層構造に焦点をあてているが、個人の移動に関わる社会的、文化的な要因に焦点をあわせてはいない。グローバリゼーションがもたらす人の移動の側面を描く用語としてトランスナショナリズムという概念がある。トランスナショナリズム概念は、移動が決して経済、政治など単一の原因によって展開するわけではなく、複合的な原因で展開すると想定している。例えば、小井戸彰宏は、「現代の移民現象は、単に量的な増加や地域や方向の広がりを見ただけでは分からず、その形態をきわめて多様にし、複雑な社会的な影響を見せていると述べている（小井戸,2005）。本論ではグローバル化の中での実際の家族の移動（個人の様々な動機を含めて）に焦点をあてたいので、以下のトランスナショナリズム論が参考になる。

2　本論の対象と研究のパラダイムについて

トランスナショナリズムとは何かについて、N・グリックーシラー（N. Glich-shiller）は次のように定義している。「われわれはトランスナショナリズムを、移民が自らの出身国と定住する国家とのあいだを繋ぐ社会的領域を作り出す諸過程として定義したい。こうした社会的領域を作り出す移民たちは、ここでトランスマイグラントと呼ばれる。トランスマイグラントは、重層的な関係性―家族的関係、経済的関係、社会的関係、組織的関係、宗教的関係、そして国境を繋ぐ政治的関係性―を作り出し維持する。トランスマイグラントは、彼等自身を二つもしくはそれ以上の社会に結び付ける社会的ネットワークのなかで、特有のアイデンティティを発展させ、様々な関心をもち、様々な行為を実践し、決断をする」（広田,2005:53）。

M・スミス（M. Smith）と L・ガンニゾ（L. Guarnizo）、はトランスナショナリズムを「上からのトランスナショナリズム」（資本や国家による制度化のレベルが高いトランスナショナリズム）と「下からのトランスナショナリズム」（制度化のレベルは低く、グラスルーツな人々の移動）と分類している（Smith & Guarnizo, 1998:7　広田, 2003）。別の角度からではあるが、S・バトベック（Steven Vertovec）はグローバル化を「上からのグローバル化」（大企業、国際協定などが主導するグローバル化）と「下からのグローバル化」（制度化の低いレベルでの非政府主体やグラスルーツな人々などによるグローバル化）と分ける(Vertovec. 2009)。

この区別はそんなに明瞭なものではなく、曖昧なものだが、本論では、グラスルーツな人々

の移動に焦点をあてるので「下からのトランスナショナリズム」の概念、枠組みを一応の研究枠組みにおきたい。ここでのトランスナショナリズムとは以下のようなものである。

グリックシラ―やスミスらの参考にして、現在のマイグレーションや彼らが作るコミュニティを見ると、次のことが見えてくる。(1) 国境を越えた移動する人々が環流的な移動と定住を繰り返すことによって、目的地と出身地に作り出す普通の開かれたコミュニティであり、(2) そこでは環流が終わり、定住が始まっても、目的地と出身地との文化が入り混った社会を作る。(3) このネットワークの形成には、出身地のそれであれ、目的地で作ったものであれ関わる人々の家族や親族や友人、というグラスルールな人々との繋がりがベースとしたレミッタンスのやりとりとそれを支える社会組織（五服制度（後述））に目が向く。(4) このような移動を前提とするコミュニティに生きる人々の心の動きや支える人々との関係に目が向く。たとえば、C.スルスキーは、個人の移動と定住過程を4段階に分けて、準備段階、実行段階、過剰適応段階と脱補償段階としている。とくに準備段階においては、誰に影響をうけ、どのような「状況の定義」をつくるかが大事だと言っている。また、実行段階においては、先住者のキーパーソンの役割を重要としている。本論では、この考え方を前提に、それぞれの事例を扱う時に、準備段階では誰が強い影響力をもったか、どのような「状況の定義」をもったか、実行段階では誰に世話になって、住むところや就職の手伝いをしてもらったか、等に焦点をあてる。ネットワークについては、制度化された仕組みというよりは、たとえば、移住に関わる何らかの人や施設を中心に集まる「社会的集合」に焦点を当てる必要がある。

また、そのネットワークで何がやりとりされるかという点については、郭玉聡が指摘しているように、スウェーデン経済学者 G. ミュルダール(Gunnar Myrdal)のネットワークや社会資本に関わる考え方がヒントになる。郭によれば、ミュルダールは「移動行為は継続性がある。移動の客観環境が変化したとしても、移動行為は継続できる」と論じ、ネットワークでやり取りされるのは様々な「社会資本」であると指摘している(郭, 2009:114)。

郭玉聡によれば、ネットワークは先行する移民と故郷の後発者の間の各種関係の集合体であると述べている。この関係は血縁、郷縁, 情縁などを指す。この点については前述した通りである。ネットワークは家族（血縁)、郷縁（同郷出身者)、情縁(友人)の繋がりを通じて、後発者にさまざまな支援を提供している。例えばお金、住居、仕事の手伝いなど。毎回の移動行為は後発者の資本になり、今後の移動に繋がっている。また、新しい移動はネットワークの拡大と発展をもたらし、移動者の規模を拡大していく。ネットワークは移動行為の継続性をもたらすもっとも重要な原因と内在的メカニズムである。

歴史的にも、人の国外の移動はネットワークの形成を基礎としている。中国の移民におけるネットワークの単位は家族あるいは宗族である。移民家族の成員の存在は移動の中の重要な「結節点」である。移動は最初は個人にはじまり、一家族、宗族、村単位での移動になる(郭,2006:81)。中国の僑郷である広東省と福建省は歴史的に、僑郷の家族移民をネットワークの核としてやってきた。一人は一人を連れ、家族はさらに別の家族を連れて移動し、移民ネットワークを作ってきた(林,1996:99)。

しかし、歴史に見た時、「家族式(＝親族式)移動」と新移民の「家族式(＝親族式)移動」には違いがある。彼らはおじ（伯父、叔父)、父、祖父、あるいは曾祖父の足跡に従って海外にいく。こういう何世代をもつ移民家族に、成員は中国に生まれたといっても、彼らの大半生は外国に暮らしてきた。彼らは中国に戻って滞在の時間は短かった。中国にいる妻が妊娠して、子供が生まれることがはっきりすると、彼らはまた外国にいった。生まれた子供は次の移民成員の一員になる(周,2002:68)。旧移民ネットワークの一つの特徴としては、移動者は送り出し地域と受け入れ地域間の環流移動は不可能であった。筆者はこの背景での移動は、厳密には、まだ「家族式(＝親族式)移動」にはならないと思う。なぜというと、「家族式(＝親族式)移動」と

はいっても、その家族の成員の多くは中国に残る場合が多いからである。現代の福建省の新移民、特に福州市の移民では、一家族、宗族、村単位で移動するのは珍しくない。また、「家族式(＝親族式)移動」によって、家族、宗族をアメリカに移動としても、彼らは送り出し地域との濃い関係は維持している。

以上のような認識を前提に、筆者は特にアメリカに移動した幾つかの家族に焦点をあて、彼らが国境をこえて維持している家族的、経済的、社会文化的関係を明らかにするために、(1)移動のプロセスに従って、①なぜ移住を考えたのか、②どのような状況の定義をしたか、③移動先で誰に世話になり、どのような仕事を見つけたか、④目的社会にどのようなアイデンティティをもったかに焦点をあてる。さらに、(2)この移動に、血縁、郷縁、情縁がどのように関わったかに注目する。そして、(3) 特に彼らの国境をこえた移動を支える血縁としての五服制度に焦点をあて、それを家族式移民という観点から研究する。なお、移動のプロセスに関しては、前述のC.スルスキーの移動段階に関する区分けを参考にしている。本論ではこのような具体的な点に焦点をあて、福州市、特に琅岐島出身者の人を対象とする。彼たちはどういう風に出国していたか。越境という行為を支えてきたのは何か。親族関係は福州市の越境者たちにいかに影響をあたえたのかについて検討する。

本論文では新移民を対象に、「家族式(＝親族式)移動」という概念を手がかりに、福建省福州市における「下からのトランスナショナリズム」のメカニズムを明らかにして、そして、「五服制度」が移動と定住の過程に果たす役割に注目して、検討したい。

そこで、本論文の目的に照らしてトランスナショナルな移動、特に家族式(＝親族式)移動の実態を明らかにする上で典型的、象徴的な事例を考える場合、琅岐島がひとつの事例になると筆者は考える。

3　事例――琅岐島出身者のアメリカ移民に焦点を当てて

ここでは、祖母としてのAさん家族の9つの事例を取り上げ、調査ポイントとしては①移動の理由、②状況の定義、③移動先でのキーパーソン、④家族式（＝親族式）移動の役割という観点から記述、分析する。

[事例1] 最初にアメリカに到着したBさんの場合
[事例2] 家族移民としてきた長男Cさんの場合
[事例3] 福州市区に定住しているDさんと移民した家族の場合
[事例4] N.Y在住だが、市民権をとっていないEさんの場合
[事例5] 市民権を取得していない夫と居るFさんの場合
[事例6] 内装の仕事をやっているGさんの場合
[事例 7] 「 家族式移動」でこそ可能になった脳および身体に障害があるHさんの場合
[事例8] 中国で子育て後、N.Yに移住したIさんの場合
[事例9] N.Yで生まれた子供の子育てを福州市の両親に任せているJさんの場合

ここであげた9つの事例は、アメリカの移動の仕方、市民権の有無、職業の違い、健常者と身体障害者、送り出し地域の福州市で子育てをしていると、それではない人等々、多様な移動と定住及び経験をしているが、それらの経験は、家族式（＝親族式）移動もっと詳しくいうと、Aさんを中心にした「五服制度」の中での相互扶助によって可能になっている点に特徴がある。

以上の事例をまとめると、以下の結果が見えてくる。

A さんの家族は福州市の農村のもっとも普通の家族である。A さんの家族みたいにほとんどの人はアメリカにいる。ダグラス マッセー (Douglas S. Massey)、G・ミュルダール (Gunnar Myrdal)、ホアキンアランゴ (Joaquin Arango) は移民ネットワークによって、先行移民と故郷の後来者が結びつけられていると論じた。移民ネットワークは後来者に各種の支援を提供することができる。たとえば、お金、住所、仕事など。毎回の移民の行為は継承者の社会資源となって、未来の移民の準備にもなる。また、新た

な移民は、このネットワークの範囲を拡大している一方、移民の規模も拡大していく(郭, 2009:114)。

A さんの家族から、ネットワークの役割がはっきり見える。先行者は継承者に住所、お金、仕事を準備する。アメリカにくる人の増加によって、継承者の支援が多くなった。こういう資源は出国希望者にとって安心の保証になって、彼らの出国に支える大切な力になる。

また、C. スルスキーは、個人の移動を 4 段階に分けて、準備段階、実行段階、過剰適応段階と脱補償段階といっている。A さん家族の事例からみると、準備段階には親族の影響力が強いと見られる。B さんは姉の影響でアメリカにきた。C さんは息子の家族呼び寄せでアメリカに来た。E さんは B さんの影響を受けてアメリカにいくことを決意した。F さんは夫がアメリカにいるからきた。G さんは妻の親族の影響を受けてアメリカにきた。H さんは兄がアメリカにいるから心が強くなった。I さんは父の家族呼び寄せでアメリカにきた。彼らの事例からみると、特に密航者としてきた B さん、E さん、F さん、G さん、H さん、J さんは親族だけではなく、「蛇頭」の力を沢山借りた。家族呼び寄せとしてきたCさんとIさんは弁護士に頼んでいた。以上の例からみると、過剰適応段階には、親族と友人は非常に大切な役割を果たしていた。お金、住所、仕事、日常生活のなか、親族と友人の身はあちらこちらに現れていた。

また、以上の例から、彼らはアメリカに定住したといっても、送り出し地域との繋がりは維持していた。こういうトランスナショナリズムの背景で出来上がった親族ネットワークは彼らにとっても大切だ。ネットワークによって、情報の交換、資金の移動が行われた。これは彼らのアメリカへの移動を支えている一方、彼らはアメリカの日常生活にも力になる。例えば、J さんは子供を中国の両親に頼んでから、自分がアメリカでの仕事、生活がうまく行けた。

しかし、前文でもふれたように、移民第一世代の人では、帰国という意識は極めて薄い。トランスナショナルなネットワークがあっても、彼らはこれからアメリカに定住し、中国に帰国する人はいない。これは A さんの家族だけではなく、福州市の農村部に普通に見られる光景であると筆者は考える。彼らは外国の国籍を持つ上で、帰国して家族と一緒に住むよりも、中国の家族の人を外国につれていくのが普通である。こういう行為の背景には、彼らは故郷の生活に安心感の欠乏、中国社会保障制度の信頼度の不足が見える一方、異郷の生活にも慣れて、将来の生活の憧憬がみられるではないかと筆者は思っている。その結果、琅岐島では三分の一以上の住民が海外に定住したという。

4　福州市「家族式移民」のトランスナショナリズム的特徴と五服制度

―アメリカ移民政策と N.Y 市福州市移民の変容の中で―

ここに 3 つのポイントから聞き取り結果を考察した。まず、アメリカの移民政策について、福建省福州市の移民に関しての受け入れ国としてのアメリカの移民政策の変遷及び中国籍移民への影響がある。福州市移民は「家族式移動」の傾向があるものの、受け入れ国の移民政策は非常に大切である。アメリカの寛容な移民政策は福州市の「家族式(＝親族式)移動」の背景をなしている。しかし、アメリカの移民政策は中国人の「到来」について、ずっと歓迎しているではなく、時代によって変わってきた。ここでは、1943 年を画期として、1943 年以前の中国に関するアメリカ移民政策の状況と 1943 年以降の変遷を検討しなければならない。

次に、K. J. ゲストの『God in Chinatown』という本が参考にし、ニューヨークのチャイナ・タウンにおける中国人と特に福州市出身者の歴史と現状を検討した。

最後は五服制度から考察した。五服制度とは何か、五服制度によって出来上がった親族ネットワークとは何か、また、前述の移動の四段階において、各段階におけるその親族ネットワークの役割はどう果たしたかについて検討した。

まずは移動の準備段階である。移動の準備段階を見る時、移動の動機に注目しなければならない。ここで、二つのキーワードがある。一つは「越境」で、もう一つは「アメリカ」である。

福州市新移民がなぜ「越境」を選んだか、なぜ「アメリカ」にいくかということを考えるとき、移動の準備段階に、移動希望者はだれから影響を受けた、どのような状況を定義しているかを検討しなければならない。最初にアメリカへ行く先行者たちは村、宗族、「五服」中の親族に強いメッセージを持ってきたのは最大の誘因になったと考えられる。次いでは移動の実行段階である。ここで、親族ネットはワーク提供しているのは資金、出国の方法、住所と仕事である。最後にアメリカ社会へ適応しようとする過剰補償段階と脱補償段階について、スルスキーは「過剰補償段階と脱補償段階は移民にとって、受け入れ地域へ適応過程の中で、自分の「エスニシティ」の再定義、再形成の段階である」と述べていた。ここで、先行者の役割は非常に強いを指している。筆者はこの二つの階段において、先行者の一つ重要な役割は新移民に自分の現在のアメリカ社会への適応状況を示すということだと考えている。

筆者は福州市新移民の移動の特徴は「家族(＝親族)」式移動にあると考える。彼らはアメリカへ越境する行為の中で、「家族（＝親族)」ネットワークは非常に強い役割を果たしている。福州市新移民には農村地域出身、低学歴の特徴をもっている。出国方法についても非正規な方法による出国（密航）は多い。したがって、彼らは一人で越境する行為は不可能だ。確かに、一見すると、彼らの越境という行為が成功するには「蛇頭」などの民間仲介の役割が大きいと思われたが、トランスナショナルな移民は決して「移動」という過程だけではなく、C.スルスキーの移動の四段階論からみると、「移動」ということはまだ実行段階に過ぎない。彼らのアメリカでの暮らしなどにはもっと深く、親密なネットワークを利用しなければならない。ここで彼らを支えてきたのは「五服制度」による出来上がった「家族（＝親族)」ネットワークである。

5　結論

本論文では、現在のグローバル化の中で、福州市新移民の移動（個人の様々な動機を含め）をトランスナショナリズム論の視点から描いてきた。 福州市琅岐島のある家族（父系親族）の事例から、福州市新移民「家族式（＝親族)」移動のトランスナショナリズム的特徴を明らかにした。

今後の課題として、グローバル化の背景の下、昔のように、送り出し地域から受け入れ地域への単方向の移動はやはり環流移動の性格を持っていると考える。何よりも、福州市移民のネットワークは、アメリカ社会への適応の中で、伝統的な、それをすこしずつ変えながら、福州市のそれとアメリカ社会のそれとを混在させるコミュニティを作っている。また、スペイン、日本に移民し、また他の国に移動する例も出た。彼らはアメリカに定住しているといっても、いつか、アメリカから他の国に移動する可能性もある。しかし、その時の移動のおいても、五服制度はまた役に立つか。また、アメリカ社会に適応した福州市新移民は、アメリカの価値観をどう受け入れるか。中国伝統な「家」の考え方、「五服制度」の変容があるかについて注目すべきだ。

参考文献（一部抜粋）

International Organization for Migration, 2011. *World Migration Report 2011: Communicating Effectively About Migration.* Imprimerie Courand et Associés

Frank.B, Gillian. S. 2003. *America’s Newcomers and the Dynamics of Diversity.* Russell Sage

福州市地方誌編集委員会編,1999『福州市誌』方志出版社

呉峰斌,1993,『东南アジア華僑史』,福建人民出版社

Guest. K. J, 2003. *God in Chinatown：religion and survival in New York’s evolving immigrant community.* New York University Press

広田康生, 2003『都市的世界/コミュニティ/エスニシティ』明石書店

方雄普,馮子平, 2001『華僑華人百科事典・僑郷篇』中国華僑出版社

Hood. M,1997. ‘Sourcing the Problem : Why

Fuzhou?’Paul J. Smith, *ed.,*
Human Smuggling, Chinese Migrant Trafficking and the Challenge to America’s Immigration Tradition, The Center for Strategic and International Studies, Washington D. C.
Wong. K. S and Chan. S, (eds,) 1998, *Constructing Chinese American Identities during the Exclusion Era.* Temple University Press
貴堂嘉之,2012『アメリカ合衆国と中国人移民』名古屋大学出版社
郭玉聡,2009 「福建省国際的な移民ネットワークについての検討―移民ネットワーク理論についての評論―」『アモイ大学学報』アモイ大学出版社
Kwong. P, 1996. *The New Chinatown,* Hill and Wang, New York
胡垣坤, 曾露凌, 譚雅倫著, 村田雄二, 郎貴堂嘉之訳, 1997『カミング・マン―19 世紀アメリカの政治諷刺漫画のなかの中国人』株式会社平凡社
小井戸彰宏, 2005「国際移民の社会学」, 梶田孝道編.『新・国際社会学』名古屋大学出版会
国務院僑办僑务干部学校編, 2005『华侨华人概述]』九州出版社
李明歓, 2005『福建僑郷調査：僑郷認同、僑郷ネットワークと僑郷文化』アモイ大学出版社
林国平,邱季端編, 2005, 『福建移民史』方志出版社
林其錟, 1996 『五缘文化と海外華人经济的の発展』『世界華商経済年鑑』企業管理出版社
中野謙二, 1997 『中国の社会構造――近代化による変容』大修館書店
Pieke. F. N. 2004. *Transnational Chinese: Fujianese Migrants in Europe,* Stanford University Press
周敏著, 郭南審訳, 2006『アメリカ華人社会の変遷』上海三聯書店
周南京, 2002『華僑華人百科事典』(総論) 中国辞書出版社
庄国土, 2003「跳船者からイースト・ブロードウェーの‘主人’へ―20 年以来福州市出身者はアメリカへ移民の研究」『華人華僑歴史研究』
竹内照夫,三樹彰,田中忠, 1977 『礼記(中)』明治書院
Tchen, John Kuo Wei. 1999. *New Your before Chinatown: Orientalism and the Shaping of American Culture,* Johns Hopkins University Press.
中国新聞社『世界華商発展報告』課題組, 2009, 『2008 年世界華商発展報告』中国新聞社
丁凌華, 2000 『中国喪服制度史』上海人民出版社

(唐　風清・修士課程 3 年)